

彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, May, 2005

課長 関 勉 T. Seki 幹事 佐藤裕久 H. Sato
幹事 松本敏一 T. Matsumoto 幹事 江崎裕介 Y. Ezaki

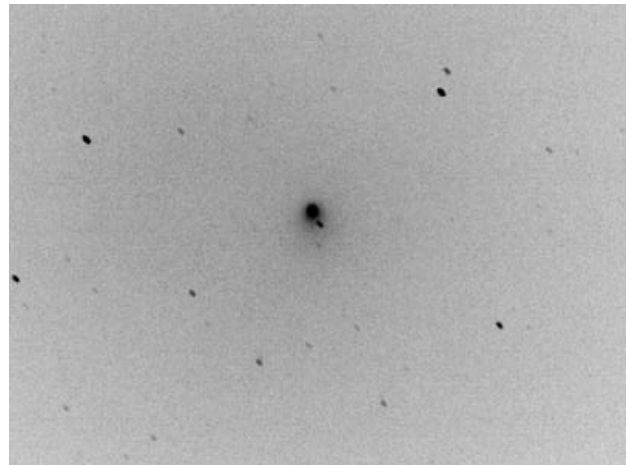
5月の状況 (佐藤)

C/2004 Q2 (Machholz) (写真 a)

C/2004 Q2 の光度は、5月中は8等台半ばから9等台前半の明るさに推移した。眼視では非常に拡散しており集光度を表す DC は3ぐらいであった。スペインの Juan José González が5月30.93日 UT 20 cm SCT x100 で得た全光度観測は、9.3等、dia 6 DC 3であった。



(写真 a) C/2004 Q2 (Machholz) 2005,05,10
22h 20.0m ~ 35.0m (JST) exp.180s x4 FCT65 + CCD
三重県上野市 田中利彦氏



(写真 b) 9P/Tempel 1 2005,05,03
23h 24.0m ~ 38.3m (JST) exp.90s x7 MN61 + CCD
三重県上野市 田中利彦氏

9P/Tempel 1 (写真 b)

いよいよ2005年7月4日、ディープ・インパクト (Deep Impact) 計画による突入機インパクトがこの彗星の核へ突入する。何かが起こるか起こらないか、是非望遠鏡をこの彗星に向けて確認の観測をして欲しい。おとめ座 星の東北東約3.5°の位置である。

詳しくは「天界」2005年6月号340ページに山本速報編集者・計算課長の中野主一氏が書いているので参考にさせていただきたい。

さて、5月の状況であるが、光度は10等半ばから11等台前半にとバラツキがあるがあまり増光していない。

スペインの Juan José González が5月30.93日 UT に観測した20cm Schmidt-Cassegrain 望遠鏡 x100 による全光度は、10.4等、dia 3.5 DC 5であった。

次の眼視観測がある。

C/2004 Q2 (Machholz)

2005	UT	m1	Dia	DC	Tail	p.a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
May	3.66	8.5	6	7	-	-	4/5	8/10	25×15cmB	関 勉	

9P/Tempel 1												
Year	UT	m1	Dia	DC	Tail	p.a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note	
2005												
May	2.58	11.5	2	5	1	220°	3/5	7/10	60×20cmR	関 勉		
	3.48	11.7	1.5	5	1	225	4/5	8/10	60×20cmR	"		
	7.61	10.7	2.6	6	6	170	-	-	68×46cmL	村上茂樹		

21P/Giacobini-Zinner												
Year	UT	m1	Dia	DC	Tail	p.a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note	
2005												
May	7.76	10.6	3	6	-	-	-	-	68×46cmL	村上茂樹		

C/2004 Q1 (Tucker)												
Year	UT	m1	Dia	DC	Tail	p.a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note	
2005												
May	7.52	12.9	1.3	3	-	-	-	-	170×46cmL	村上茂樹		

C/2004 K1 (Catalina)												
Year	UT	m1	Dia	DC	Tail	p.a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note	
2005												
May	7.60	15.0	0.6	3	-	-	-	-	291×46cmL	村上茂樹		

32P/Comas Sola												
Year	UT	m1	Dia	DC	Tail	p.a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note	
2005												
May	7.51	12.1	1.8	4	-	-	-	-	170×46cmL	村上茂樹		

2005年5月に発見された彗星は次のとおり。

C/2005 H1 (LINEAR)

4月30.32日 UT、LINEAR サーベイのプログラムコースで小惑星状として発見されたが、その後の観測から彗星であることが判明した。(IAUC 8522, 2005 May 3)

C/2005 J1 (McNaught)

5月3.72日 UT、Siding Spring サーベイのプログラムコースで R. H. McNaught が発見した。5月5.7日 UTの画像では少し拡散し西に 10 の尾があった。(IAUC 8525, 2005 May 8)

C/2005 EL₁₇₃ (LONEOS)

3月8.24日 UT、LONEOS サーベイのプログラムコースで小惑星状として発見されたが、5月10.0日 UT、欧州南天天文台(ESO)の3.6-m New Technology Telescope (NTT)で得た CCD 観測から彗星であることが判明した。(IAUC 8526, 2005 May 10)

C/2005 J2 (Catalina)

5月12.16日 UT、Catalina スカイサーベイのプログラムコースで小惑星状として発見されたが、その後の観測から彗星であることが判明した。(IAUC 8528, 2005 May 16)

C/2005 JN (Spacewatch)

5月3.20日 UT、Spacewatch サーベイのプログラムコースで小惑星状として発見されたが、その後の観測から彗星であることが判明した。(IAUC 8528, 2005 May 16)

C/2005 JQ₅ (Catalina)

5月6.28日 UT、Catalina スカイサーベイのプログラムコースで小惑星状として発見されたが、その後の観測から彗星であることが判明した。(IAUC 8531, 2005 May 17)

初期の軌道から NASA の Current Impact Risks に掲載され、イギリスの科学雑誌 New Scientist の電子版は2085年6月11日に30万分の1の確率で衝突する可能性を示唆した。

その後、軌道の精度が上がるに従い Current Impact Risks からは外された。

C/2005 K1 (Skiff)

5月16.34日 UT、LONEOS サーベイのプログラムコースで Brian A. Skiff が発見した。集光したコマと北西に 90 ほど伸びた尾があった。(IAUC 8532, 2005 May 20)

C/2005 K2 (LINEAR) (写真 c)

5月19.36日 UT、LINEAR サーベイのプログラムコースで発見された。18等級の光度で p.a. 270° に短い尾と大変拡散したコマが見られた。(IAUC 8533, 2005 May 20)

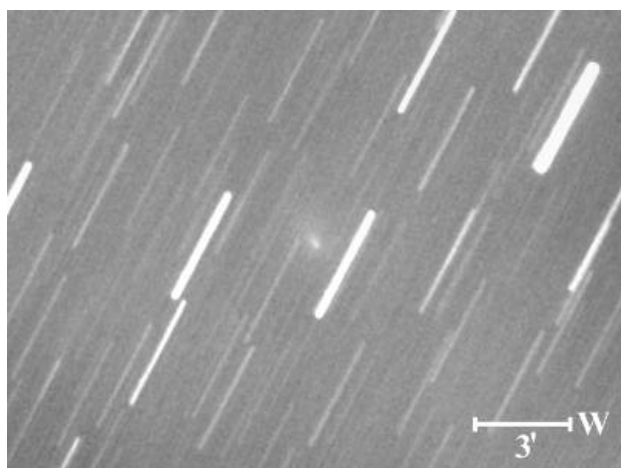
ベルギーの Robert Hutsebaut は、New Mexico Skies Observatory の 0.25-m 反射 (Rent-a-scope: インターネット・アクセスの自動化された望遠鏡時間レンタルサービス) を遠隔操作し得た画像から、同じく非常に拡散状で p.a. 270° に 1 の尾を観測した。

国内では、上尾市の門田健一氏や久万高原の中村彰正氏が捉えた。非常に拡散し集光が弱く位置測定しにくい彗星のようである。

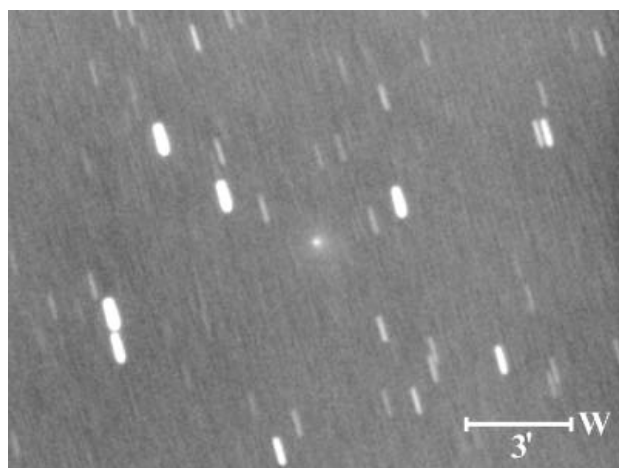
161P/Hartley-IRAS (写真 d)

1月以来太陽に近く観測できなかったが、オーストラリアの Michael Mattiazzo と上尾市の門田健一氏によって再観測された。大きな非重力運動があるようだ。

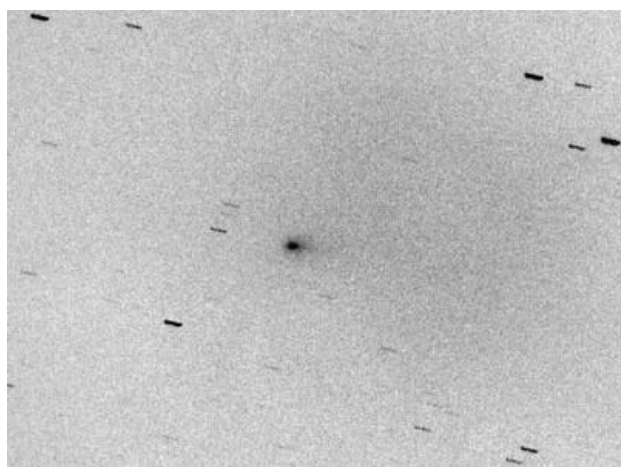
その他比較的明るい彗星としては、C/2004 Q1 (Tucker)、21P/Giacobini-Zinner (写真 e)、32P/Comas Sola、C/2004 K1 (Catalina) (写真 f) などであった。



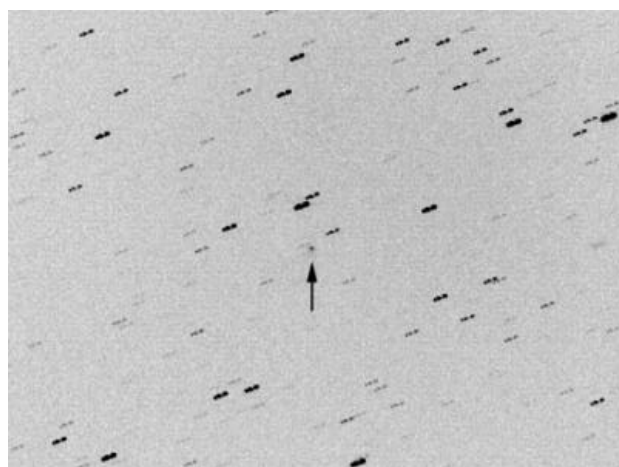
(写真 c) C/2005 K2 (LINEAR)
2005 May 31.590 UT exp. 60s x32 25cm L + CCD
埼玉県上尾市 門田健一氏



(写真 d) 161P/Hartley-IRAS
2005 May 31.758 UT exp. 60s x16 25cm L + CCD
埼玉県上尾市 門田健一氏



(写真 e) 21P/Giacobini-Zinner 2005,05,11
3h 52.0m ~ 4h 01.0m (JST) exp.60s x5 MN61 + CCD
三重県上野市 田中利彦氏



(写真 f) C/2004 K1 (Catalina) 2005,05,04
1h 10.0m ~ 22.3m (JST) exp.80s x5 MN61 + CCD
三重県上野市 田中利彦氏